

教育課程編成実施方針（カリキュラム・ポリシー）

1 大学としてのポリシー

少人数教育の特徴を活かして、知識や技術の修得だけでなく、大学内及び社会生活において、相手の立場に立って考え、温かさ、やさしさをもって行動できる人材を育てることを目指す。初年次教育においては偏りがなく、幅広い教養を身につけるための共通科目を設け、未知なものに好奇心をもたせて学ぶことの楽しさや奥深さに気づかせ、総合教養科目と専門科目との連携を密にしながら、専門科目や実験・実習科目を通じて高度の知識と技術の修得を目指し、課題の発見及び問題解決能力を養う。また、社会における大学の役割を考え、大学と地域の連携を重視し、地域志向科目や学部ごとに地域実践演習科目等を設け、自治体や地元産業及び市民と連携を保ち、地域が抱えている課題の解決に貢献することを目指す。さらに、多職種・専門職種間の連携を実践的に行う科目を設け、他の専門職との協力関係を構築し、ともに現場での課題解決に取り組んでいく意識と知識を備えることも目指す。

2 学部・学科のポリシー

栄養学部

- ア 幅広い教養を身につけ、コミュニケーション能力、判断力、社会貢献に対する意識を養うために、教養科目を配置する。
- イ 各学科の提供する専門科目を通じた専門的知識の修得と論理的思考を行う力を身につける。
- ウ 豊かな人間性により他者の心情を共感、理解し、自ら情報を発信し円滑なコミュニケーションを通じて指導できる力を身につける。

① 栄養学科

- ア 自主的精神に充ち、多様な人々と協調して、何事にも誠心誠意対処できる能力を養成する総合教養科目を配置する。
- イ 専門的知識の修得に必要な基礎として、幅広い科学的知識を身につけ、社会や自然界の仕組みを理解できる科目を配置する。
- ウ 管理栄養士・栄養士に必要な、食・栄養・健康に関する高度な専門的知識や技能を深く学び、能動的に課題を発見・探究できる能力を養成する専門教育科目（専門基礎分野及び専門分野）を、基礎から応用・実践へと段階的に身につけられるよう配置する。
- エ 学んだ専門的知識や技能を、実践的に活用できる能力を養成する科目として、「総合演習」「臨地実習」「特別演習」「専門セミナー」を配置する。
- オ 様々な職種と連携し、地域と協働するためのコミュニケーション能力を身につけるとともに、地域社会のニーズや課題に対応し、人々の健康増進・疾病予防・栄養改善に貢献できる人材を育成する科目（IPE・地域連携）を配置する。
- カ 卒業後の進路選択のために、資格関連（食品衛生管理者・食品衛生監視員、フードスペシャリスト、NR・サプリメントアドバイザー）、コース関連（食品デザイナー、臨床栄養療法、食育実践、スポーツ栄養）の選択科目を配置し、さらに栄養教諭一種免許状の資格を取得することのできる教職課程を配置する。

② 食創造学科

- ア 食の多様性に触れることで食への好奇心を高め、自己のキャリア意識を醸成するための科目を配置する。
- イ 食に関する幅広い知識を身に付け、興味関心に沿った学びを深めるため、食料生産、食品加工・流通、研究開発、食品ビジネス、店舗経営、食生活と健康に関する科目を配置する。
- ウ 学んだ知識を有機的に関連させ、人と社会の幸福に寄与する食品を開発・提案できる力へと繋げるために、プロジェクト型学修や自ら設定したテーマを研究・探求する演習科目を配置する。

エ 少人数のゼミナール形式でキャリア意識の醸成や学びのサポートを行うための科目を配置する。

心理学部

現代応用心理学科

心理学に関する科学的知識や方法論、学習内容を応用する力を修得できるように、初年次から段階的に専門科目を高度化する体系を編成して、心理学の基礎知識と方法論、専門知識の獲得と応用を、年次を追って配置する。

ア 教養教育において心理学以外の分野の知識を修得するとともに、大学での学びの基礎となる読解力・表現力・論理的思考力・情報発信力を養うために、少人数による「心理学基礎セミナー」を設ける。

イ 心理学についての専門知識を基礎から修得するために、「基礎心理学」「臨床心理学」「健康・スポーツ心理学」「ビジネス心理学」「犯罪心理学」の各領域について幅広く学べる専門科目を配置する。またその前段階として「心理学概論」をはじめとする各領域の概論を配置する。

ウ 心理学の基礎的な方法論とスキルを修得するために、「基礎実験実習」「研究法」「統計法」「心理アセスメント」などの実習・演習科目を配置する。

エ 5領域のそれぞれで学んだ心理学の専門知識を応用し、自らの関心や問題意識とつなげて人の行動や心の特性について深く考え、新たな知見をもたらす力を養うために、「心理学専門セミナー」を設ける。

オ 公認心理師として必要な知識・技術・職業倫理を修得するための専門科目と、将来の実践現場である保健医療・教育・福祉・司法・産業の各領域に関するスキルを学修する「心理演習」「心理実習」を配置する。

カ 自ら学んだ専門知識の社会での活用方法を実践的に考えるために、キャリア形成を積極的に探索する「仕事体験」と、多職種・専門職連携の基礎を学修する「多職種・専門職連携」科目を設ける。

キ 4年次教育において、学習した知識と自ら設定した問題について科学的な手法で探索する力、研究の成果を適切な表現を用いてまとめ、それを発表する力などの総合的な能力を養うために、「卒業研究」を設置し必修とする。

栄養学研究科

(1) 博士前期課程

- (ア) 現代社会が抱える食と栄養に関する課題を、広範な視野を持って俯瞰するとともに、高い倫理的な見地から理解させる講義を配置する。
- (イ) 諸課題に取り組むため、栄養学および食品学領域の専門的知識と技術を学び、社会に還元できる能力を身につけられる科目を配置する。
- (ウ) 研究内容や学識について、整理要約して第三者に提示するとともに、他者との議論の中で発展させることができる演習科目を配置する。
- (エ) 教員の指導の下、自らの研究課題に対し、実験・調査を行い、結論を導き、修士論文としてまとめる科目を配置する。

(2) 博士後期課程

現代社会の抱える食と栄養の問題に関して自らが設定した課題を、栄養学的、食品学的な知識と技術を用いて、教員の助言の下で能動的に研究し、自立した研究者として解決できるよう、見識、洞察力、創造力を養うことができるカリキュラムを配置する。

心理学研究科

(1) 博士前期課程

- (ア) 臨床心理学と心理学コースに関わる現象について、科学的に探究し、問題を発見・解決していける高度専門職業人を養成するために、講義科目、演習科目、実習科目からなるカリキュラムを配置する。

(イ) 自らの専門に対し複眼的な思考と視点を持ち、柔軟に取り組むことができるように「インターディシプリナリー研究」科目を配置する。

(ウ) 公認心理師及び臨床心理士として必要な専門的知識と技術を修得するための科目を配置する。

(エ) 修士論文は、演習科目において実施した研究をもとに新たな知見について公表することを必修とする。

(2) 博士後期課程

(ア) 指導者・研究者として自立していくための高度な知識と技術の習得、態度の形成に必要なカリキュラムを配置する。

(イ) 博士論文作成に向けた研究指導を第一の目的とし、それに関連する学会発表や論文投稿についても積極的な指導を行う。

(ウ) カリキュラムの学びのほかに、指導者・研究者としての経験を積むことを奨励する。